

(部 内 限)

海軍公報 (部内限) 第九百九十二號

昭和六年四月一日(水) 海軍大臣官房

○ 令 達

官房第一〇六七號

常分ノ間除籍艦船ヲ左ノ通假稱シ部内限之ヲ使用ス

昭和六年四月一日

海 軍 大 臣

舊軍艦利根ヲ廢艦第二號トス
舊軍艦筑摩ヲ廢艦第三號トス
舊軍艦阿蘇ヲ廢艦第四號トス

辭 令

海軍機關中佐 小澤 仙吉

右者熱心研究ノ結果優秀ナル方向探知器ヲ完成シ通信術上帝國海軍ヲ裨益スル所極メテ大ナリ仍テ銀杯一組竝ニ金百五拾圓ヲ賞與ス

海軍技手 落合 新作

右者小澤海軍機關中佐ヲ輔ケ優秀ナル方向探知器ノ

完成ニ資スル所不尠仍テ金百貳拾圓ヲ賞與ス

海軍技師 大谷 益次郎

右者傾斜甲鉞ノ製造ニ際シ河野海軍技手ヲ指導シ熱心研究ノ結果壓延法ノ實施ニ成功シ甲鉞製造上帝國海軍ニ貢獻スル所不尠仍テ茲ニ之ヲ表彰ス

海軍技手 河野 俊雄

右者大谷海軍技師指導ノ下ニ傾斜甲鉞壓延作業ニ就キ銳意研究中獨特ノ考案ヲナシ甲鉞製造上帝國海軍ヲ裨益スル所不尠仍テ金百五拾圓ヲ賞與ス

海軍技師 齋藤 明親

右者多年苦心研究ノ結果大砲抑氣具ノ改良ニ成功シ帝國海軍ヲ裨益スル所極メテ大ナリ仍テ銀杯一組竝ニ金貳百圓ヲ賞與ス

海軍技手 石川 甚吉

右者苦心研究ノ結果橫廠式耐震型電磁拘束裝置ヲ考案シ帝國海軍ヲ裨益スル所不尠仍テ金百圓ヲ賞與ス (以上 海軍省)

海軍公報 (部内限) 第九百九十二號 昭和六年四月一日

○ 繼 款

○軍艦進行動豫定

地名	着	發
吳世保	四月六日	四月五日
佐長山列島	四月十四日	四月十一日
大連	四月十八日	四月十八日
裏長山列島	四月二十一日	四月二十一日
旅順	五月三日	五月六日
裏長山列島	五月六日	五月十七日
大連	五月十七日	五月二十一日
裏長山列島	五月二十一日	六月七日
旅順	六月七日	六月二十八日
裏長山列島	六月二十八日	七月二十二日
芝罘沖作業地	七月三十日	七月三十日
旅順	七月三十日	七月九日
裏長山列島	八月九日	八月二十日
旅順	八月二十日	八月二十四日
裏長山列島	八月二十四日	八月二十六日
黃海中部落業地	八月二十七	八月三十一日
仁川	八月十一日	八月三十一日
裏長山列島	八月十一日	八月三十一日

旅順	二十一日	二十五日
裏長山列島	二十五日	二十七日
山東高角沖作業地	二十七日	九月四日
鎮南浦	九月四日	九月十日
裏長山列島	九月十日	九月二十日
大連	九月二十日	九月二十五日
裏長山列島	九月二十五日	十月三日
旅順	十月三日	十月八日
裏長山列島	十月八日	十月十七日
大連	十月十七日	十月二十四日
佐世保	十月二十四日	十月二十七日
吳世保	十月二十八日	十月三十一日

○事務開始
左記本所遠隔受信所落成ニ付本月一日ヨリ事務ヲ開始ス

一、場所 神奈川縣橋本郡橋本字蟹ヶ谷
二、名稱 東京海軍無線電信所橋本受信所
(東京海軍無線電信所)

海軍公報 (部内限) 第九百九十三號

昭和六年四月二日(木)
海軍大臣官房

部

令
裁

(限 内)

○令 達

官房第一〇六八號
昭和六年四月一日
海軍大臣官房
自
消
滅

馬公要港部司令官殿

臺北在勤武官ニ關スル件訓令

當分ノ間其ノ部參謀一名ヲ臺北ニ在勤セシメ之ニ書記
一名ヲ附シ左記要領ニ依リ服務スル様取計ヲベシ

記

一、臺灣總督府ト連繫ヲ保持シ海軍關係事項ノ交渉處
理及諜報事務ニ服スルコト

二、諜報事務ニ關シテハ海軍軍令部長ノ、佐世保鎮守
府所掌事項ニ關シテハ佐世保鎮守府司令長官ノ區
處ヲ受クルコト

(通達先 佐世保鎮守府司令長官)

○雜 款

○第二十五驅逐隊(梨)行動豫定

馬地	名	着	發
馬公	頭	三月二十八日	三月二十七日
廣東	東	三十一日	三十日
馬公	公	四月七日	四月六日

○驅逐艦竹行動豫定

馬地	名	着	發
馬公	門	三月二十八日	三月二十八日
馬公	公	二日	四月二日

○郵便物發送先
第二遣外艦隊司令部、軍艦球磨宛
四月六日迄ニ到達見込ノモノハ青島
同 十一日迄ニ同 芝罘(大連經由)

海軍公報(部内限)第九百九十三號 昭和六年四月二日

一一一

海軍公報(部内限)第九百九十三號
昭和六年四月二日

同 同
同 十七日迄ニ
同 二十六日迄ニ
共ノ後ハ 同

大 旅 青
連 順 島

二
三
二

1685

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第九百九十四號

昭和六年四月四日(土)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第一〇九四號
雜役船ノ所屬及定數別ヲ左ノ通變更ス

昭和六年四月四日

海軍大臣

船種	公稱番號	新所屬	舊所屬	定數別	記事
曳船兼交通船 (三十噸)	第四號	海軍工廠	海軍工廠	九	公稱第二三九號代船
内火艇	第五七號	海軍工廠	海軍工廠	定數補充	
曳船兼交通船 (百噸)	第六〇九號	海軍砲術學校	海軍砲術學校	七	公稱第一二七號代船
同 (百五十噸)	第六五號	海軍工廠	海軍工廠	定數補充	
同 (百噸)	第七六號	海軍工廠	海軍工廠	充	
同 (七十噸)	第一三三號	海軍砲術學校	海軍砲術學校	上	臨時附屬

海軍公報 (部内限) 第九百九十四號

昭和六年四月四日

一一三

1686

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第九百九十五號

海軍大臣官房

昭和六年四月六日(月)

○ 令 達

官房第一〇九三號

海軍職工解備特別手當支給規則左ノ通定ム

昭和六年四月二日

海 軍 大 臣

海軍職工解備特別手當支給規則

第一條 海軍工作廳及海軍軍需部ニ於テ造船造兵事業ニ從事スル職工ニシテ倫敦海軍條約ノ實施ニ伴ヒ艦艇建造ニ關スル經費ノ減少ニ基キ昭和六年四月中解備セラレタル者ニハ本則ニ依リ解備特別手當ヲ支給ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ當ル者ニハ解備特別手當ヲ支給セズ

- 一、願ニ依リ解備セラレタル者
- 二、特別ノ理由ナクシテ同一廳内ニ於ケル轉備ヲ肯シザルニ因リ解備セラレタル者

三、海軍工務規則第二十八條第一項各號ニ記載セル事由ニ依リ解備セラレタル者

第三條 解備特別手當ハ之ヲ特別手當及歸郷手當ニ分チ特別手當ハ勤績年數ノ區分ニ從ヒ別表ニ依リ、歸郷手當ハ第十條乃至第十二條ニ依リ之ヲ支給ス

第四條 勤績年數ハ海軍職工トシテ備入ノ日ヨリ解備ノ日迄ノ期間ニ依ル但シ官制改正等ノ爲其ノ勤務應海軍ノ管轄ト爲リタルモノニ在リテハ其ノ變更前ノ勤績期間ハ之ヲ通算ス

第五條 海軍部内ニ於テ雇員又ハ備入ヨリ職工ニ轉ジタル者ニ在リテハ雇員タリシ年數ハ其ノ十分ノ八、備入タリシ年數ハ其ノ十分ノ六ヲ職工トシテノ勤績年數ニ通算ス

第六條 解備又ハ解雇セラレタル者其ノ當日又ハ翌日再ビ海軍部内ニ採用セラレタルトキハ前二條ノ適用ニ關シテハ之ヲ勤績者ト看做ス

第七條 兵役ニ服スル爲解備又ハ解雇セラレタル者除

海軍公報 (部内限) 第九百九十五號

昭和六年四月六日

一二五

隊ノ日ヨリ七十日以内ニ再ビ海軍部内ニ備入又ハ探用セラレタルトキハ其ノ前後ノ勤続年數ハ之ヲ通算ス海軍部内ノ生徒ヲ命ゼラレタル爲解備セラレタル者學科ヲ修了シ又ハ生徒ヲ免ゼラレ復歸シタルトキ亦同ジ

第八條 海軍部内ニ於テ職工ヨリ文官又ハ待遇官吏ニ任用セラレ再ビ職工ニ轉シタル者ニ在リテハ其ノ職工タリシ前後ノ勤続年數ハ之ヲ通算ス

第九條 第四條但書及第五條乃至第八條ノ規定ハ前ニ解備等ニ基因シ解備手當等ノ支給ヲ受ケタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十條 歸郷手當ハ解備セラレタル職工ニシテ解備後一月以内ニ出發歸郷スル者ニ之ヲ支給ス

歸郷手當ハ海軍内國旅費規則ニ依ル本人解備前ノ旅費等級ニ從ヒ勤務地(旅行中ノ者ニ付テハ本人現在地)ヨリ歸住目的地ニ到ル本人及隨伴ノ同居妻子ニ對スル鐵道賃及船賃ノ實費トス但シ私事ノ爲旅行中ノ者ニ付テハ勤務地及本人現在地ヨリ本籍地(女子又ハ未成年者ニシテ父母、配偶者其ノ他ノ保護ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ保護者ノ住所地以下同ジ)ニ到ル額ヲ、其ノ他ノ者ニ付テハ勤務地(公務旅行

中ノ者ニ付テハ本人現在地)ヨリ本籍地ニ到ル額ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ鐵道賃及船賃中ニハ急行料、寢臺料、艀舟賃、棧橋賃及荷物運賃ハ之ヲ加算セズ

歸郷手當ノ支給ヲ受クル者ニハ海軍工務規則第六十九條ノ二ノ規定ニ依ル旅費ハ之ヲ支給セズ

第十一條 歸郷手當ノ支給ニ關シ本籍地並ニ妻子ノ員數及年齡ハ戸籍謄本又ハ職工手帳ニ掲グル所ニ依ル但シ妻子ノ員數及年齡ニ關シテハ別紙書式ノ證明書ヲ提出スル者ニ限り該證明書ニ依ルコトヲ得

第十二條 歸郷手當ハ乘車券、乘船券又ハ乘車券引換證ヲ以テ現金ニ代ヘ之ヲ交付スルヲ例トス

第十三條 特別手當ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス但シ國債端金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 所轄長ハ職工ノ勤務ノ情況等ヲ參酌シ特別手當ノ支給額ヲ減少スルコトヲ得

第十五條 解備特別手當計算ノ基礎タル給料ハ解備當日ノ基本賃錢ニ依ル

第十六條 本則ニ依リ解備特別手當ノ支給ヲ受クベキ者ニハ解備ニ際シ増給スルコトヲ得ズ

第十七條 本則ニ依リ解備特別手當ノ支給ヲ受クベキ

者ニハ解備ニ際シ他ノ賜金、手當又ハ賞與ヲ支給スルコトヲ得ズ

第十八條 本則ニ依リ解備特別手當ノ支給ヲ受クベキ者ニハ解備豫定日ノ十日前ニ解備ヲ内示スルモノトス

前項ニ依リ解備ノ内示ヲ受ケタル者ニ對シテハ解備内示ノ翌日ヨリ解備ノ前日迄休業ヲ命ズルコトヲ得此ノ場合ニハ海軍工務規則第四十六條ニ依リ賃錢ヲ支給ス

第十九條 本則ニ依リ解備特別手當ヲ支給シタルトキハ支給期日及金額等ヲ職工手帳ニ記入スルモノトス
第二十條 本則ニ依ル解備特別手當ノ支給ヲ受ケタル職工ハ爾後一年間ハ海軍部内ニ於テ囑託員、雇員、傭人又ハ職工トシテ之ヲ採用又ハ傭入スルコトヲ得ズ

(別表)

特別手當額表

勤續一年未滿ノ者	區分	手當日數	給料	七三日分
同	一年以上ノ者	同	同	八八日分
同	二年以上ノ者	同	同	一一八日分
同	三年以上ノ者	同	同	一三三日分
同	四年以上ノ者	同	同	一四八日分
同	五年以上ノ者	同	同	一七八日分
同	六年以上ノ者	同	同	一九三日分
同	七年以上ノ者	同	同	二〇八日分
同	八年以上ノ者	同	同	二二三日分
同	九年以上ノ者	同	同	二三八日分
同	十年以上ノ者	同	同	二六八日分
同	十一年以上ノ者	同	同	二八五日分
同	十二年以上ノ者	同	同	三〇〇日分
同	十三年以上ノ者	同	同	三一五日分
同	十四年以上ノ者	同	同	三三〇日分
同	十五年以上ノ者	同	同	三六〇日分

海軍公報(部内限)第九百九十五號

昭和六年四月六日

一二七

同 十六年以上ノ者	同	三七五日分	同 三十一年以上ノ者	同	六一五日分
同 十七年以上ノ者	同	三九〇日分	同、三十二年以上ノ者	同	六三〇日分
同 十八年以上ノ者	同	四〇五日分	同 三十三年以上ノ者	同	六四五日分
同 十九年以上ノ者	同	四二〇日分	同 三十四年以上ノ者	同	六六〇日分
同 二十年以上ノ者	同	四五〇日分	同 三十五年以上ノ者	同	六七五日分
同 二十一年以上ノ者	同	四六五日分	同 三十六年以上ノ者	同	六九〇日分
同 二十二年以上ノ者	同	四八〇日分	同 三十七年以上ノ者	同	七〇五日分
同 二十三年以上ノ者	同	四九五日分	同 三十八年以上ノ者	同	七二〇日分
同 二十四年以上ノ者	同	五一〇日分	同 三十九年以上ノ者	同	七三五日分
同 二十五年以上ノ者	同	五二五日分	同 四十年以上ノ者	同	七五〇日分
同 二十六年以上ノ者	同	五四〇日分	<p>備考</p> <p>一、海軍工務規則第二十八條第一項第九號及同條第二項ニ該リ昭和六年六月ニ解備セラルベキ者ニ對シテハ本表額ノ六割トス</p> <p>二、海軍工務規則第二十八條第一項第九號及同條第二項ニ該リ昭和六年十二月ニ解備セラルベキ者ニ對シテハ本表額ノ八割トス</p>		
同 二十七年以上ノ者	同	五五五日分			
同 二十八年以上ノ者	同	五七〇日分			
同 二十九年以上ノ者	同	五八五日分			
同 三十年以上ノ者	同	六〇〇日分			

三、前二號ニ於テ計算上目數ノ端數ハ四捨五入スル

モノトス

(別紙)書式

妻子證明書

本籍
現住所

、工廠、部、工場、工

(本人)

氏名 某(生年月日)

妻

長男(女)

某(同)

二男(女)

某(同)

三男(女)

某(同)

前記本人及妻子ハ同居セルコトヲ證明候也

年 月 日

何町 何番地

、工廠、部、工伍長

何 某

何警察官署長(又ハ市區町村長)

何 某

備考

一、本證明書ニハ二人以上ノ證明ヲ要ス

二、證明書中ノ一人ハ同一應ニ勤務スル伍長以上ノ者タルヲ要ス

三、證明書中ノ他ノ一人ハ所在地ノ警察官署長、市區町村長又ハ之ニ準ズベキ者タルヲ要ス

○通牒

經給第二四號

昭和六年四月二日

海軍省 經理局長

海軍工作廳長
海軍軍需部長

職工解備特別手當ニ關スル件照會

官房第一〇九三號海軍職工解備特別手當支給規則ニ依ル手當ニ關シ左記ノ通調書作製ノ上御送付相成度尙公債ニ剩餘ヲ生ジタルトキハ其ノ内譯竝ニ詳細ナル事由書各二通ヲ附シ速ニ當局宛御送付相成度

記

調書名	様式	通數	送付期限
特別手當支給調書	別紙様式第一	三	四月三十日
歸郷手當支給調書	別紙様式第二	二	五月三十一日

受給者氏名		手當額		内		應名
		公債額 (額面)	同上交付價格 ニ依ル換算額	同上交付價格 ニ依ル換算額	端數現金	
(様式第一)						
特別手當支給調書						
計						
(様式第二)						
受給者氏名		支給ノ基礎タル日数		歸住地		應名
		大人	小人	金額		
歸郷手當支給調書						
記事						
合 計						

備考

一、歸住地欄ニハ最終驛名又ハ上陸地ヲ「何線何驛又ハ何港」ト記註ノコト

二、勤務地以外ノ現在地ヲ支給上ノ起點トシタルモノニ付テハ其ノ地名ヲ記事欄ニ掲記ノコト

辭令

海軍軍令部參謀海軍少將 坂野 常善

第三班長ヲ命ス 同 海軍中佐 佐藤 波藏

第二班第三課勤務ヲ命ス(以上同海軍軍令部)

雜款

○入學考試問題發送
第三十一期高等科學生採用考試問題本月二日發送済
備考 試驗期日(三月六日公報(部内限)參照)
(海軍水雷學校)

○訂正
本月二日本欄驛逐艦竹行動豫定中「四月一日」ヲ「四月二日」ニ訂正ス

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第九百九十六號

昭和六年四月七日(火)
海軍大臣官房

○ 辭 令

海軍少將 坂野 常善
思想調査委員會委員ヲ命ス (附海軍省)

○ 雜 款

○郵便物發送先
第十六驅逐隊 (刈萱、芙蓉、朝顔) 宛
四月十一日迄ニ到達見込ノモノハ
芝罘領事館氣付
同 十七日迄ニ 同
其ノ後ハ 旅 大 順 連

海軍公報 (部内限) 第九百九十六號 昭和六年四月七日

(部 内 限)

海軍公報 (部内限) 第九百九十七號

海軍大臣官房

昭和六年四月八日(水)

○通牒

教育第五一號ノ九

昭和六年四月七日

海軍省教育局

關係各廳御中

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料
ノ件通知

昭和六年四月第九回無線電信遠距離受信檢定信文送信
要目左記ノ通

記

信文 東京海軍無線電信所 送信

番號 送 信 日 時 速度(一分間) 信 文 修 正

一	四	二	日			
午前	八時	三十三分		八八		
二	同	八時	三十七分	八八		

三	同	八時	四十分	八八	
四	同	八時	四十四分	八八	本文十七字目不正
五	同	八時	四十七分	八八	
六	同	八時	五十分	八八	
七	同	八時	五十四分	八七	本文三十七字目不正
八	同	八時	五十七分	八八	
九	同	九時	一分	八八	
一〇	同	九時	五分	八八	
一一	同	九時	九分	八八	
一二	同	九時	十三分	八八	
一三	同	九時	十六分	八八	
一四	同	九時	十九分	八八	

海軍公報(部内限) 第九百九十七號 昭和六年四月八日

一三三

1634

一五	同	九時二十三分	八八
一七	同	九時三十一分	八八
備	考	一、天候晴 一、送信状態良好 一、夕ナ一六取消	
○雜款			
<p>○正誤 本月六日令達欄官房第一〇九三號海軍職工解備特別手 當支給規則(別紙)書式備考二、三中「證明書」ハ「證 明者」ノ誤</p>			

海軍公報 (部内限) 第九百九十八號

海軍大臣官房

昭和六年四月九日(木)

○令達

官房機密第三一七號(昭和六年官房機密第四〇三條依之廢止) 昭和六年四月九日

海軍大臣

各鎮守府司令長官 各要港部司令官 殿

防備隊方面備砲射撃ニ關スル件訓令

防備隊方面備砲中十五糎砲及十二糎砲ニシテ射撃ニ支障ナキモノニ限リ當分ノ間毎年左記ニ依リ教練射撃ヲ施行スベシ

記

一、射撃實施要領

適宜ノ標的ヲ使用シ艦砲教練射撃ニ準ジ之ヲ施行ス

二、射撃彈數

每一門ニ付減裝藥八發以內

三、報告

艦砲教練射撃ニ準ズ

大正十一年官房機密第一六六二號ハ之ヲ廢止ス (内令提要卷一、三九三頁參照)

○通牒

經給第二九號

昭和六年四月九日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

解備職工歸郷汽車賃ニ關スル件通牒

官房第一〇九三號海軍職工解備特別手當支給規則第十二條ニ依ル處理ニ關シ豫テ當局ヨリ鐵道省運輸局ニ對シ交渉中ノ處乗車券ノ引換並ニ運賃後拂ニ關スル事項ハ各鐵道局ノ處理シ得ル權限内ノモノナルヲ以テ當該鐵道局ニ對シ直接交渉アリ度旨回答有之候ニ付右御了知ノ上可然御處理相成度尙運輸局ヨリハ關係鐵道局ニ對シ本件爲念通知濟ニ有之候

海軍公報(部内限) 第九百九十八號

昭和六年四月九日

一三五

1636

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第九百九十九號

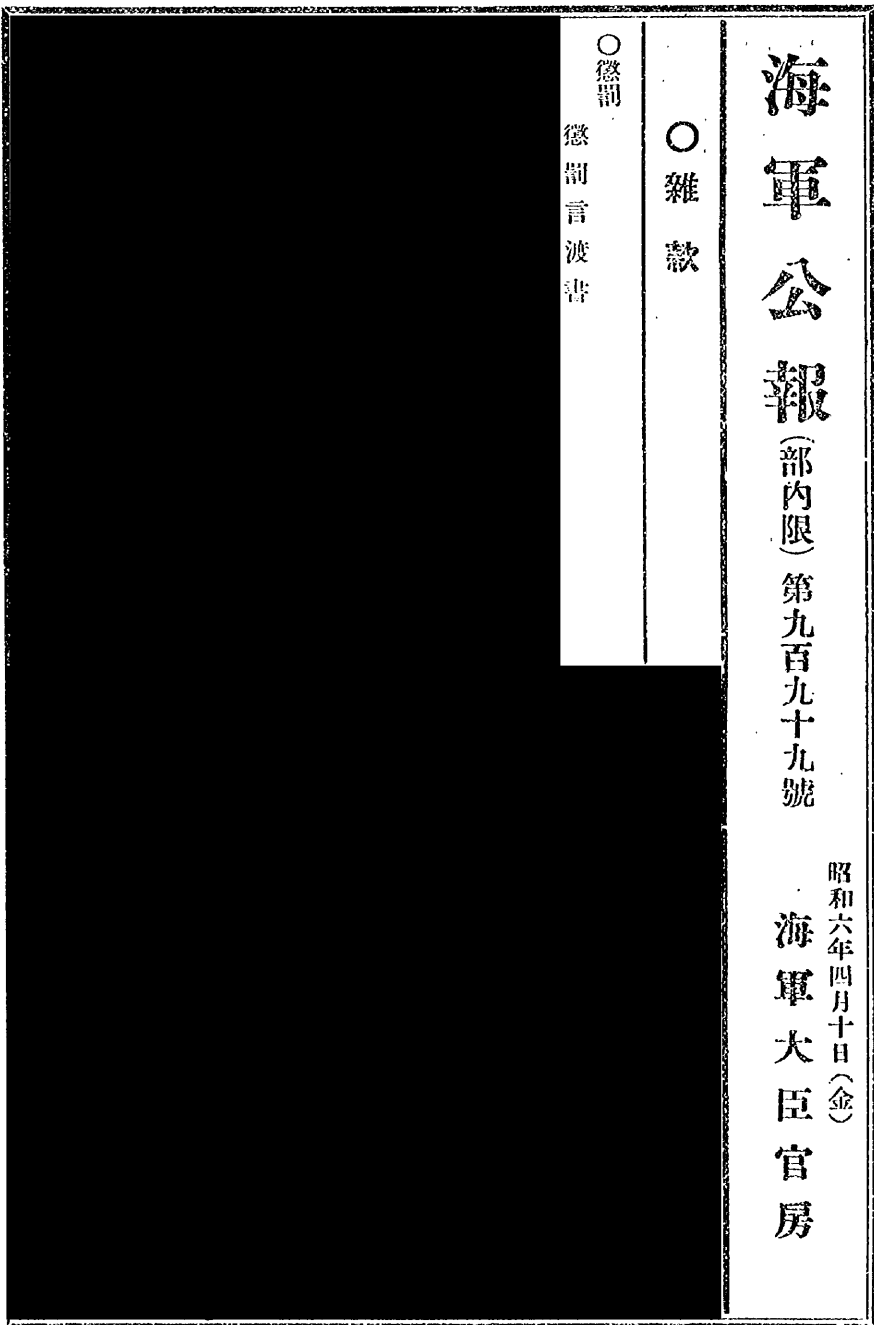
昭和六年四月十日(金)

海軍大臣官房

○ 雜 款

○ 懲 罰

懲罰言渡書



海軍公報(部内限) 第九百九十九號

昭和六年四月十日

一三七

1637



海軍公報（部内限）第九百九十九號

昭和六年四月十日

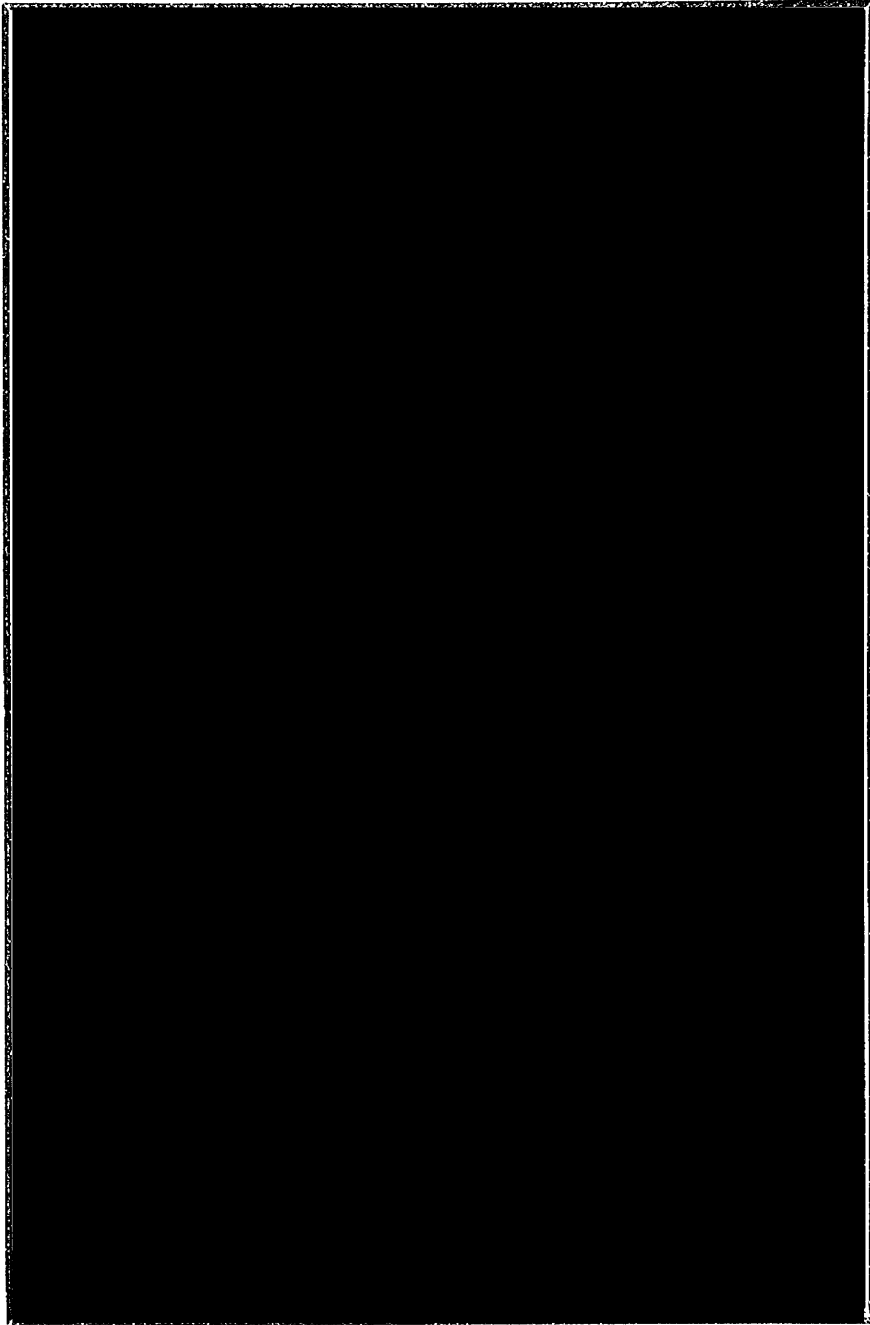
一三八

1698

海軍公報（部内限）第九百九十九號

昭和六年四月十日

一三九



1699

海軍公報（部内限）第九百九十九號

昭和六年四月十日

一四〇

1700

海軍公報 (部内限) 第九百九十九號

昭和六年四月十日

一四一

1701

海軍公報（部内限）第九百九十九號
昭和六年四月十日

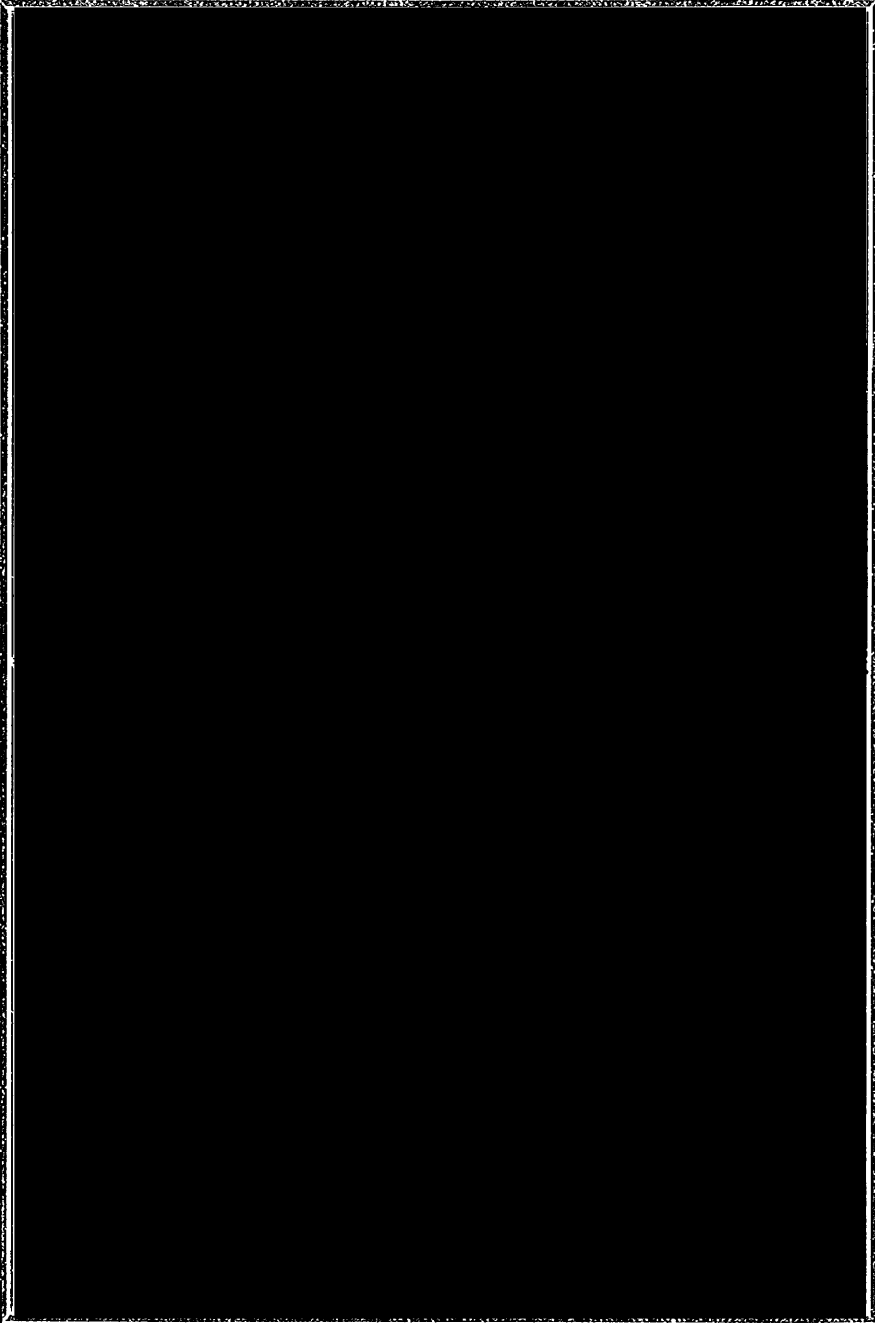
一四二

1702

海軍公報（部内限）第九百九十九號

昭和六年四月十日

一四三



1703

海軍公報(部内限)第九百九十九號 昭和六年四月十日

一四四

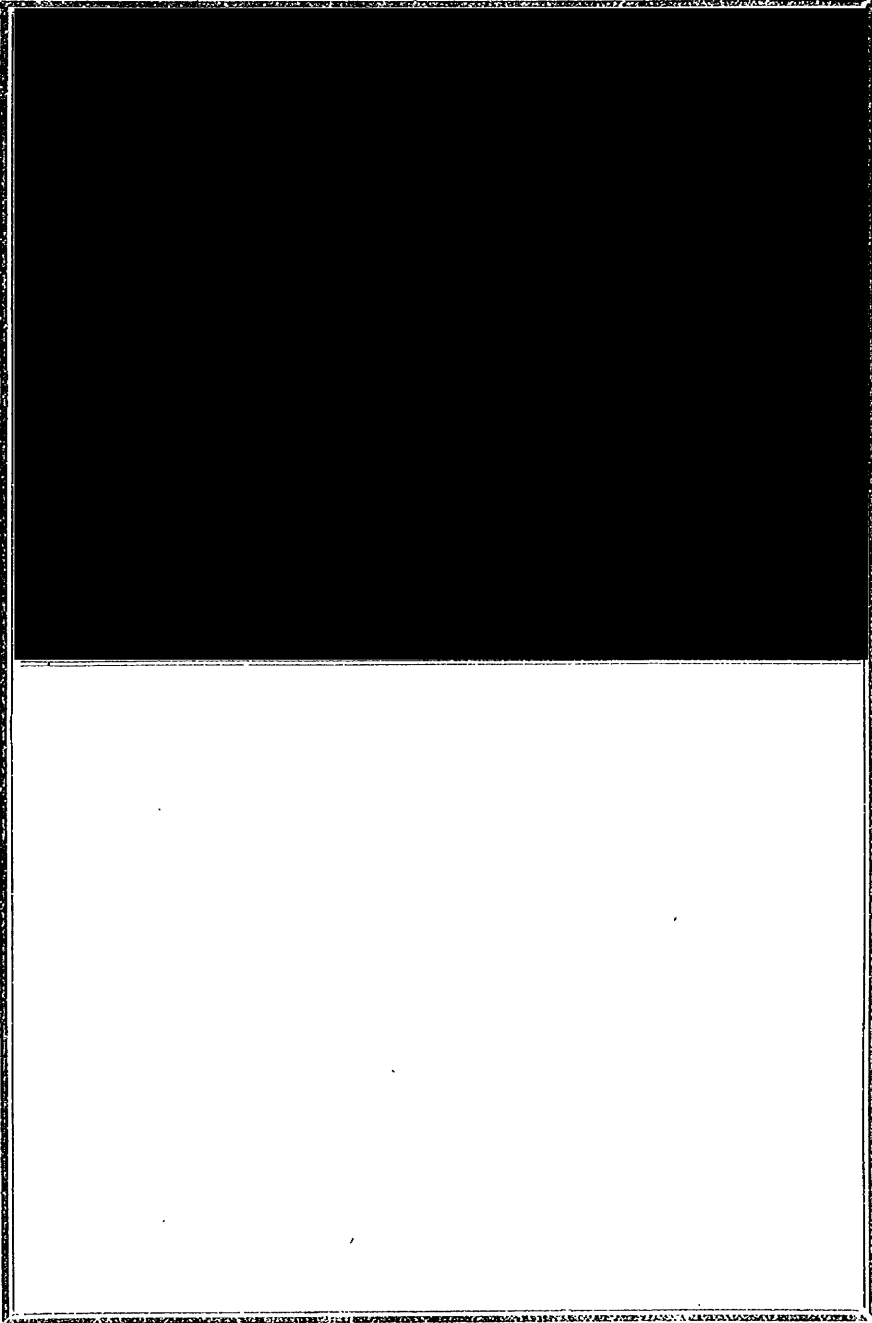
1704

海軍公報(部内限)第九百九十九號

昭和六年四月十日

一四五

1705



海軍公報(部内限)第九百九十九號

昭和六年四月十日

一四六

1706

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千號

○雜款

○郵便物發送先

第二十六驅逐隊 (栗) 宛

四月二十三日迄ニ到達見込ノモノハ

其ノ後ハ

驅逐艦楡、楫、柿宛

基 佐 佐
隆 保 世
保 保 世

昭和六年四月十一日 (土)
海軍大臣官房

海軍公報 (部内限) 第千號 昭和六年四月十一日

一四七

1707

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第一千一號

昭和六年四月十四日(火)
海軍大臣官房

○通牒

教育第五一號ノ一〇

昭和六年四月十三日

海軍省教育局

關係各廳御中

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料
ノ件通知

昭和六年四月第十回無線電信遠距離受信檢定信文送信
要目左記ノ通
記

信文	佐世保海軍無線電信所 送信	
番號	送 信 日 時	速度(一分間)
一	四月九日 午前八時三十三分	七五
二	同 八時三十八分	七五
信文	修正	
一	同 八時三十八分	七五
二	同 八時三十八分	七五
三	同 八時四十一分	七五
四	同 八時四十五分	七六
五	同 八時四十九分	七五
六	同 八時五十三分	七六
七	同 八時五十七分	七七
八	同 九時	七五
九	同 九時六分	七五
一〇	同 九時十一分	七三
一一	同 九時十五分	七五
一二	同 九時十九分	七五
一三	同 九時二十三分	七五
一四	同 九時二十七分	七四
一五	同 九時三十一分	七五

海軍公報(部内限) 第一千一號 昭和六年四月十四日

一四九

1708

中華民國へ出張ヲ命ス(海軍省)

一六同	九時三十五分	七五
一七同	九時三十九分	七五
備	一、天 候 晴	
考	一、送信状態 良好	

軍需兵第六六九號

昭和六年四月十四日

海軍省軍需局長
海軍艦政本部長

各海軍軍需部長
舞鶴要港部軍需部長
各海軍工廠長
舞鶴要港部工作部長

廣木式小銃口径外膛砲彈藥包ヲ三八式
小銃彈藥包ニ組替使用ノ件通牒
爾今當分ノ間廣木式小銃口径外膛砲彈藥包ヲ三八式小
銃彈藥包ニ組替使用ノ事ニ御取計相成度

○ 辭 令

海軍中佐 福留 繁

(限 内 部)

1710

海軍公報(部内限) 第一千二號

昭和六年四月十六日(木)
海軍大臣官房

○令 達

官房第一二五五號

昭和六年度艦艇派遣費中華民國方面臨時艦艇派遣諸費ヲ以テ經費ヲ支辨スベキ各部左ノ通指定シ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

經費整理區分ハ經理局長ヲシテ通牒セシム

昭和六年四月十五日

海軍大臣

記

一、艦船

平戸、安宅、伏見、隅田、嵯峨、勢多、堅田、比良、保津、烏羽、熱海、二見、浦風、球磨、第十六驅逐隊

二、艦船以外ノ各應

○通 牒

經豫第一三六號

本日官房第一二五五號ニテ昭和六年度艦艇派遣費中華民國方面臨時艦艇派遣諸費ヲ以テ經費ヲ支辨スベキ各部指定相成候ニ就テハ之ヲ經費ハ左記區分ニ依リ處理相成度

昭和六年四月十五日

海軍省經理局長

昭和六年度艦艇派遣費中華民國方面臨時艦艇派遣諸費整理區分

- 一、中華民國方面臨時艦艇派遣諸費支辨ノコトニ指定セラレタル各部ニ於テ中華民國方面臨時艦艇派遣ニ關シ要スル經費中次號ニ掲グルモノハ中華民國方面臨時艦艇派遣諸費支辨トシ其ノ他ハ經常費ノ支辨トス
- 二、中華民國方面臨時艦艇派遣諸費支辨ノ經費ハ左ノ區分ニ依リ、俵給

海軍公報(部内限) 第一千二號 昭和六年四月十六日

一五一

第二遣外艦隊司令部(臨時増置員ヲ含ム)ノ航海加俸、上海特別陸戰隊員タル臨時増置員ノ航海加俸、臨時中華民國駐在員ノ加俸

リ、應費

特命ニ依ル通信費、物品費、圖書及印刷費、消耗品費

ハ、雜給及雜費

上海特別陸戰隊員タル臨時増置員中特務士官以下ノ轉勤轉乘旅費、特命ニ依ル出張旅費、臨時使用スル囑託員、雇員及傭人ノ給料、臨時特ニ要スル給與及特ニ増加スル雜費

ニ、衣糧費

特命ニ依ル被服費

ホ、造船造兵及修理費

特命ニ依ル艦船兵器ノ臨時造修費、消耗兵器費

ヘ、患者費

上海特別陸戰隊ニ於テ要スル療用品費、同藥劑費、同傳染病豫防及消毒諸費、依託患者費、臨時使用スル傭人ノ給料、特ニ増加スル雜費

ト、艦營費

特命ニ依ル燃料、同艦營需品、同保管運搬費、

臨時使用スル雇員傭人ノ給料、特ニ増加スル雜費

チ、接待費

特ニ要スル接待費

リ、機密費

特ニ要スル機密費

經契第三號ノ六二

昭和六年四月一日

海軍省 經理局長

關係契約擔任官殿

冷質引拔鋼管ニ關スル件通知

協定致候條右ニ依リ處理相成度

記

協定書

海軍省經理局長加藤亮一ハ左記冷質引拔鋼管ノ購買ニ關シ供給者住友伸銅鋼管株式會社常務取締役古田俊之助ト協定スルコト左ノ如シ

品名

砲塔内水壓管

第三班第六課勤務ヲ命ス(海軍省海軍司令部)

水管式離管

蒸氣管

給水送管

氣蓄用鋼管

重油加熱器用管

一、本協定期間ハ昭和六年四月一日ヨリ昭和七年三月三十一日迄トス

二、本協定ニ依ル單價ハ別表ノ通トス但シ本單價中ニハ納入地(内地ニ限ル)迄ノ運賃其ノ他納入ニ要スル一切ノ費用ヲ含ムモノトス

右協定ノ確實ヲ證スル爲本書式通ヲ作り雙方記名調印シテ各其ノ壺通ヲ保有ス

昭和六年四月一日

海軍省經理局長 加藤 亮一

住友伸銅鋼管株式會社

常務取締役 古田 俊之助

(別表一葉添)

○ 辭 令

海軍軍司令部出仕海軍中佐 尾崎 主税

海軍公報(部内限) 第千二號 昭和六年四月十六日

(昭和六年四月十六日公報(部内限)別表)

英式	佛式	英式厚サ	佛式厚サ	英式長	佛式長	亜鉛鍍付ノモ	亜鉛鍍セザルモ
内徑9"及其以下	内徑230 ^m / _m 及其以下	1.5G 1	8 ^m / _m	二五呎	4.5 ^m	二四〇	二一〇
同 8"	同 200 ^m / _m	同 2	同 7 ^m / _m	同	同	二一〇	一八五
同 7"	同 180 ^m / _m	同 3	同 6.5 ^m / _m	同	同	一八五	一六五
同 6"	同 150 ^m / _m	同 4	同 6 ^m / _m	同	同	一六五	一五〇
同 5"	同 130 ^m / _m	同 5	同 5.5 ^m / _m	同	同	一五〇	一三五
同 4"	同 100 ^m / _m	同 6	同 5 ^m / _m	同	同	一三五	一二五
同 3"	同 75 ^m / _m	同 7	同 4.5 ^m / _m	同	同	一二五	一一五
外徑3"	外徑76 ^m / _m	同 8	同 4 ^m / _m	一〇呎	3 ^m	一一五	一〇五
同 2 ¹ / ₂ "	同 64 ^m / _m	同 9	同 3.5 ^m / _m	同	同	一〇九	九九
同 2"	同 51 ^m / _m	同 10	同 3.2 ^m / _m	同	同	一〇五	九五
同 1 ¹ / ₂ "	同 38 ^m / _m	同 11	同 2.9 ^m / _m	同	同	一〇九	九九
同 1 ¹ / ₄ "	同 32 ^m / _m	同 12	同 2.6 ^m / _m	同	同	一一三	〇三
同 1"	同 25 ^m / _m	同 13	同 2.3 ^m / _m	同	同	一一九	〇九

但シ

- 一、前記ノ厚サ長サハ其ノ標準ヲ示スニ止マルモノトス
- 二、前記價格ハ昭和三年七月一日達第百號及同四年八月十五日達第八十六號追加海軍造船機造兵主要材料試驗檢査規則第貳編第五章ニ合格ノモノ又ハ之ニ類似ノ管ニ適合スルモノトス
- 三、同第貳編第七章ニ合格ノモノ又ハ之ニ類似ノ管ハ前記價格ノ一割増トス
- 四、段付押擴ケ等特別ノ加工ヲ要スルモノ及特別規格ノモノハ相當ノ値増ヲ爲スモノトス
- 五、特種寸法ノモノ亂尺ノモノ又ハ小量ノモノニ對シテハ相當値増ヲ爲スモノトス
- 六、規格ナキモノ又ハ製造容易ナルモノハ相當値引ヲ爲スモノトス
- 七、水管式罐管ニ付テハ木栓ヲ附スル場合ハ前記價格ニ對シ罐管重量一瓦ニ付一錢五厘ノ割増ヲ附スルモノトス
- 八、契約寸度ハ英式ノ場合ハ夫々上段、佛式ノ場合ハ夫々下段ニ據ルモノトス

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千三號

昭和六年四月十七日 (金)
海軍大臣官房

○令 達

官房第一二八一號

艦營需品定額表中數量左ノ通定ム

昭和六年四月十七日

海軍大臣

砲術長 主管

同	品 消 耗	區別	類別	番 號	品 名	數 稱	定 數
五	三	戰艦、巡洋戰艦、航空母艦、海兵團	一等巡洋艦、海兵團			各四	
一	六	二等巡洋艦、潜水母艦、敷設艦、一等海防艦、潜水母艦、敷設艦、二等海防艦、砲艦、驅逐艦、潜水艦、掃海艇、特務艦、航	二等巡洋艦、潜水母艦、敷設艦			各三	
革 縫 錐	革 縫 糸	戰艦、巡洋戰艦、航空母艦、海兵團	二等巡洋艦、潜水母艦、敷設艦、一等海防艦、潜水母艦、敷設艦、二等海防艦、砲艦、驅逐艦、潜水艦、掃海艇、特務艦、航			各四	
個	個	戰艦、巡洋戰艦、航空母艦、海兵團	二等巡洋艦、潜水母艦、敷設艦、一等海防艦、潜水母艦、敷設艦、二等海防艦、砲艦、驅逐艦、潜水艦、掃海艇、特務艦、航			各三	
		戰艦、巡洋戰艦、航空母艦、海兵團	二等巡洋艦、潜水母艦、敷設艦、一等海防艦、潜水母艦、敷設艦、二等海防艦、砲艦、驅逐艦、潜水艦、掃海艇、特務艦、航			各二	

同	戰艦、巡洋戰艦、航空母艦、海兵團	各一
五	二等巡洋艦、潜水母艦、敷設艦	各五
二	二等海防艦、砲艦、驅逐艦	各五
革 縫 針	潜水艦、掃海艇、特務艦、航	各六
個		

官房機密第三六九號
左記ノ者當分ノ間海軍購買應ニ於ケル指名競争契約ノ入札又ハ隨意契約ノ見積加入ヲ停止ス
昭和六年四月十七日

記
一、株式會社唐津製鋼所 佐賀縣東松浦郡唐津村大字 唐津五〇五四
一、合名會社淺野木工場 名古屋市西區上呂町三一

官房機密第二〇二號ノ二
昭和六年官房機密第二〇三號中霞ヶ浦海軍航空隊艦上機ノ項講習員ノ欄「同 淺田昌彦」ノ次ニ「同 増田

海軍公報 (部内限) 第千三號 昭和六年四月十七日

一五五 (以下之ニ準、予 (二百七五五五)

作治)ヲ加フ

昭和六年四月十七日

海軍大臣

○ 辭 令

(各通) 海軍司法事務官 潮見 茂樹

同 山本 孝治

思想調査委員會委員ヲ命ス

(各通) 海軍司法事務官 潮見 茂樹

同 高 頼 治

海軍懲罰令改正委員會委員ヲ命ス

同 島 田 清

思想調査委員會委員ヲ免ス

海軍懲罰令改正委員會委員ヲ免ス(以上^加海軍省)

一五
五

(部内限) (中)

海軍公報(部内限)附録

昭和六年四月十七日(金)
海軍大臣官房

昭和六年二月中ニ於ケル艦船恩給年加算始終期左ノ通

(海軍省軍務局)

艦船名	加算始終期(左)右	發地名	行先	任務	加算恩給率	記事
矢矧	二月一日	馬公	南洋及南支那方面	外國鎮戍	一月半	同上
球磨	二月七日	旅順	威海衛	同	同上	同上
洲埼	二月三日	横須賀				
膠州	二月四日	基隆	呂宋海峡	遠洋航海	半月	
樞	二月一日	馬公				
	二月八日	同	烏坵嶼	外國鎮戍	一月半	同上

海軍公報(部内限)附録

朝	梨	竹	
芙蓉			
二	二	二	二
二七	二	七	二
旅	高	馬	高
順	雄	公	雄
芝		烏	
采		垢	
外國鎮戍		外國鎮戍	
一月半		一月半	
同上		同上	

上卷一五五頁(多摩)九行目加算率叙勳欄「同上」ヲ削ル
 同 三三五頁(宇治)六行目「九、一〇、八」ハ「九、一〇、一八」ノ誤植

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千四號

昭和六年四月十八日(土)
海軍大臣官房

○通牒

經豫第一四一號

昭和六年四月一日

海軍省經理局長

各支出官殿

外國旅費豫算流用増額ニ關スル件照會

昭和四年勅令第三百十號ヲ以テ外國旅費ハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非ザレバ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ザル費途ニ追加相成候ニ不拘當該豫算支出額ガ各節別支拂豫算令示額ヲ超過スル場合支拂豫算増減更定請求手續洩ノ向モ有之處理上不都合ニツキ爾今豫メ手續方勵行相成様致度

海軍公報 (部内限) 第千四號 昭和六年四月十八日

一五五ノ三

1718

(限^中内 部)

海軍公報 (部内限) 第千五號

昭和六年四月二十日(月)
海軍大臣官房

○雜款

○特務艦膠州行動豫定

地名	着	發
横須賀	五月十四日	四月二十七日
アイリング ラブラブ	十八日	五月十七日
ヤル ト	三十一日	六月二日
アイリング ラブラブ	六月五日	六月十五日
作業地	十八日	七月八日
アイリング ラブラブ	二十日	七月十九日
ヤル ト	七月九日	八月八日
アイリング ラブラブ	二十三日	八月二十六日
ポナ ペ	二十九日	八月三十一日
ホ ル	八月十一日	八月九日
ホ ル	十三日	八月十二日
作業地	二十一日	八月二十日
ホ ル	二十四日	八月二十三日
トラ ック		九月四日

作業地	九月七日	十九日
トラック	二十二日	三十日
サイパン	十月四日	十六日
横須賀	十月十六日	三十日

海軍公報 (部内限) 第千五號

昭和六年四月二十日

一五七

1719

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第一千六號

海軍大臣官房

昭和六年四月二十一日(火)

○通牒

教育第五一號ノ一一

昭和六年四月二十日

海軍省 教育局

關係各應御中

無線電信遠距離受信檢定成績調査資料

ノ件通知

昭和六年四月第十一回無線電信遠距離受信檢定信文送
信要目左記ノ通
記

番號	送信日	時	速度(分間)	信文修正
一	四月十六日	午前八時三十三分	七五	
二	同	八時三十七分	七五	本文七十五字目「ミ」ヲ「モ」ト下送信ス
三	同	八時四十一分	七五	
四	同	八時四十五分	七五	
五	同	八時四十九分	七五	
六	同	八時五十三分	七五	
七	同	八時五十七分	七五	
八	同	九時一分	七五	本文四十五字目「ロ」ヲ「ン」ト下送信ス 同四十六字目「元」
九	同	九時五分	七五	本文九十五字目不正
一〇	同	九時九分	七五	本文十四字目「ミ」ヲ「ト」ト下送信ス
一一	同	九時十三分	七五	
一二	同	九時十七分	七五	
一三	同	九時二十二分	七五	
一四	同	九時二十五分	七五	

海軍公報(部内限) 第一千六號 昭和六年四月二十一日

一五九

海軍公報(部内限) 第六千六百號 昭和六年四月二十一日

一六〇

考 備	一五 同	七五
	一六 同	七五
一、送信状態 良好	一、天 候 晴	九時三十三分

1721

(限 内 部)

海軍公報(部内限) 第七千七號

昭和六年四月二十四日(金)
海軍大臣官房

○通牒

艦本第一九三六號

昭和六年四月一日

海軍艦政本部長
海軍航空本部長

關係各廳長殿

入費概算書調製ニ關スル件通牒

昭和五年十月二十日艦本第四九一六號入費概算書調製手續中左記ノ通追加ス

記

- 一〇ノ二 兵裝工事ニ對スル入費概算書ハ兵器造修試驗検査規則ニ依リ上中ノ兵裝費豫算調書記載ノ事項別(兵裝準備費、兵裝費、公試費)ニ調製スルモノトス

○辭令

○雜款

海軍主計少佐 大松澤文平
海軍軍事普及委員會委員ヲ命ス(四月十日海軍省)

○懲罰

懲罰言渡書

海軍公報(部内限) 第七千七號 昭和六年四月二十四日

一六一

1722

海軍公報(部内限) 第七千七號

昭和六年四月二十四日

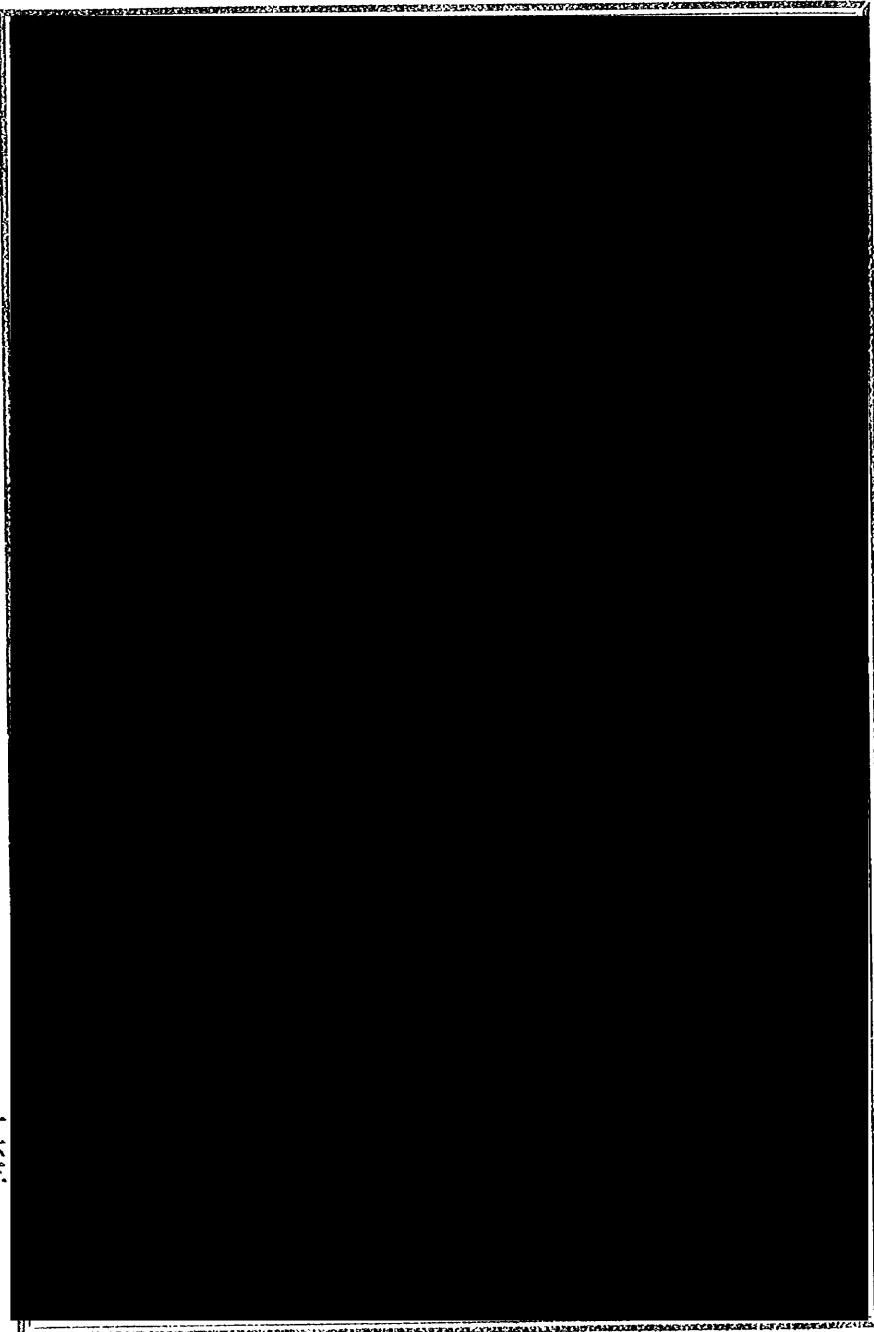
一六二

1723

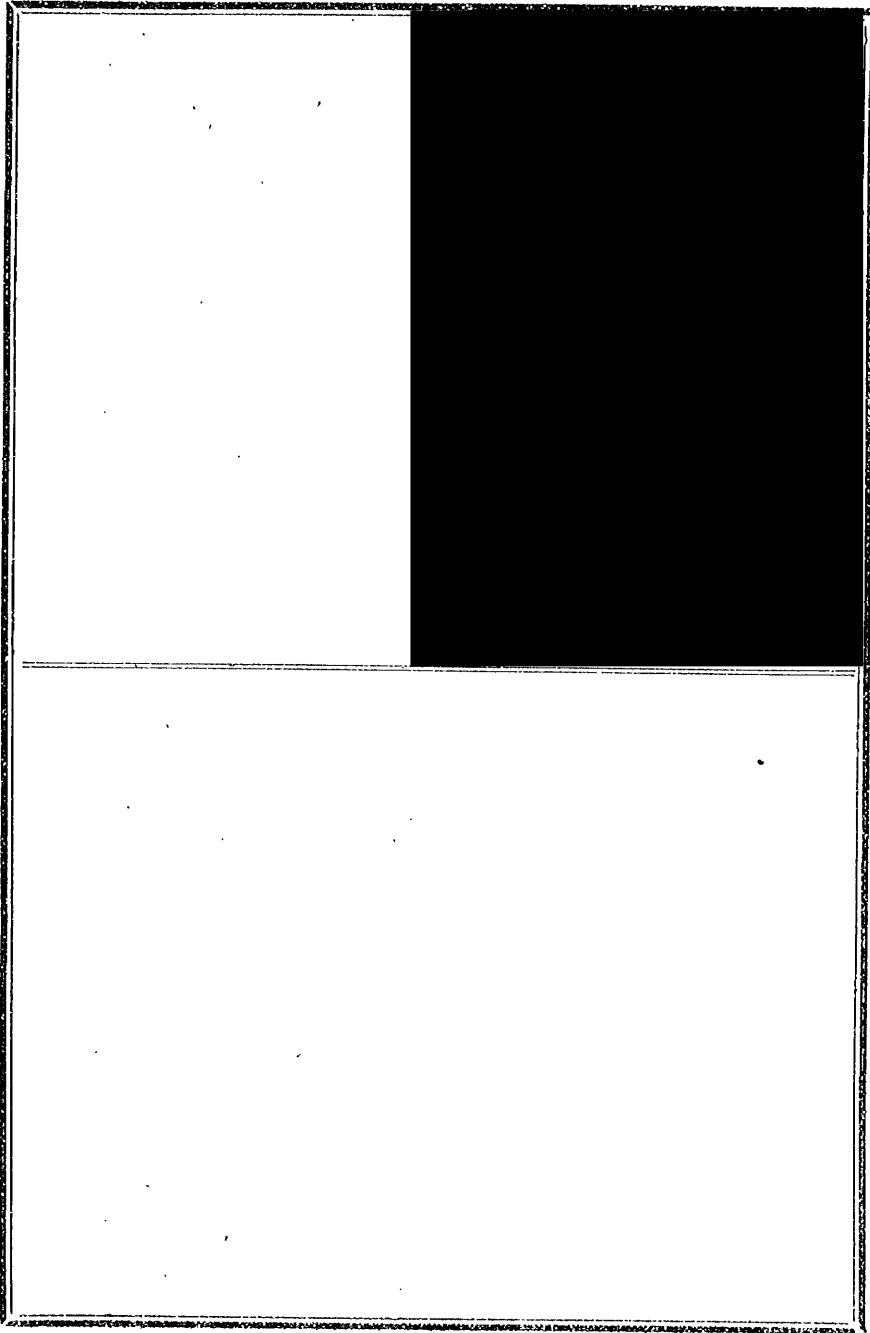
海軍公報（部内限）第千七號

昭和六年四月二十四日

一六三



1724



海軍公報(部内限) 第七千七號 昭和六年四月二十四日

一六四

1725

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千八號

○ 雜 款

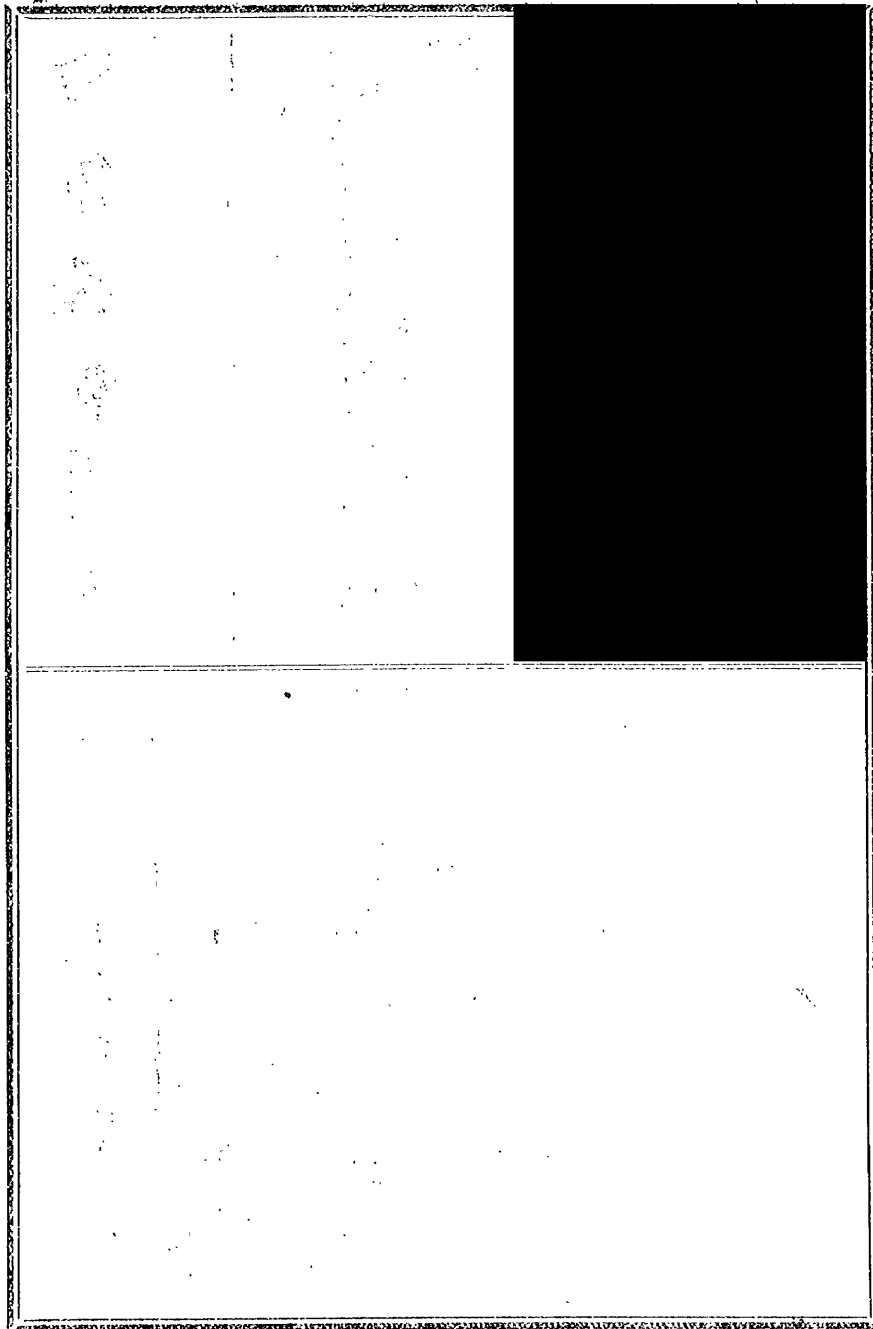
懲罰言渡書

昭和六年四月二十五日(土)
海軍大臣官房

海軍公報(部内限) 第千八號 昭和六年四月二十五日

一六五

1726



海軍公報(部内限) 第千八號、昭和六年四月二十五日

一六六

1727

海軍公報 (部内限) 第千九號

昭和六年四月二十七日(月)
海軍大臣官房

○令 達

艦隊運動訓練場の閉鎖を命ずるに
關し

官房機密第四〇九號
昭和九年四月廿九日(機密ニ九七号)

艦船(雜役船ヲ除ク)ニ於テ操舵關係諸裝置及重要航

海兵器ノ効力ニ影響ヲ及ボスベキ故障缺損等ヲ發生シ

タル場合廳長ハ毎年十二月一日ヨリ翌年五月三十一日

迄及六月一日ヨリ十一月三十日迄ノ二期間ニ分チ發生

セル事項ヲ別紙様式(第一、第二)ニ依リ之ヲ調製シ

所屬長官ニ提出スルト共ニ在籍鎮守府司令長官、海軍

省軍務局長(様式第一ノミ)、海軍艦政本部長(様式第

二ノミ)及運用術練習艦春日艦長ニ直接提出又ハ送付

スベシ尙潜水艦關係ノモノハ海軍潜水學校長宛別ニ一

通ヲ送付スベシ

昭和六年四月二十七日

海軍大臣

(別紙一葉添)

廢止 部内限 (限)

海軍公報(部内限)第千九號 昭和六年四月二十七日

一六七

(様式第一)

(昭和六年四月二十七日公報(部内限)別紙)

見所ハ又見意	年 月 日	故障発生ノ種類 及ニ発生ノ時機		故障ノ状況	故障ノ原因	處置ノ概要
		故障発生ノ種類 (種類、番號等)	同上故障箇所			

軍艦(艦種別)何操舵關係諸裝置故障損摘要表

發送
番號

自 年 月 日
至 年 月 日

應

長

(様式第二)

見所ハ又見意	年 月 日	故障発生ノ種類 及ニ発生ノ時機		故障ノ状況	故障ノ原因	處置ノ概要
		故障発生ノ種類 (種類、番號等)	同上故障箇所			

軍艦(艦種別)何重要航海兵器故障摘要表

發送
番號

自 年 月 日
至 年 月 日

應

長

(註) 重要航海兵器トハ左記兵器ヲ謂フ

磁氣羅針儀、轉輪羅針儀、航跡自畫器、艦底測程儀、電動測深儀、音響測深儀、探信儀、潛望鏡其ノ他必
要ト認ムルモノ

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第千十號

昭和六年四月二十八日(火)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第一三八一號
昭和五年官房第四一〇四號ニ依リ採用スベキ偵察練習生ハ志願者ノ範圍ヲ昭和六年一月以前ニ於テ海軍通信學校普通科電信術練習生教程ヲ終了セル者ニ限定ス
昭和六年四月二十八日
海軍大臣

○ 通 牒

教育第五一號ノ一二
昭和六年四月二十七日
海軍省教育局
關係各廳御中
無線電信遠距離受信檢定成績調査資料
ノ件通知
昭和六年四月第十二回無線電信遠距離受信檢定信文送

信要目左記ノ通記

番號	送 信 日 時	速度(一分間)	信 文 修 正
一	四月二十三日 午前八時三十三分	七五	
二	八時三十八分	七五	
三	八時四十二分	七二	本文五十字目「ウ」ヲ「ム」ト送信ス
四	八時四十六分	七五	
五	八時五十分	七五	
六	八時五十四分	七四	
七	八時五十七分	七四	
八	九時一分	七五	

海軍公報 (部内限) 第千十號 昭和六年四月二十八日

一六九

1730

海軍公報(部内限) 第千十號 昭和六年四月二十八日

九同	九時五分	七四
一〇同	九時八分	七五
一一同	九時十二分	七五
一二同	九時十五分	七五
一三同	九時十九分	七四
一四同	九時二十二分	七五
一五同	九時二十五分	七五
一六同	九時三十八分	七五
備考	一、送信状態 タナ七ノ終稍高低アリタル外良好	
備	一、天候晴	

一七〇

1731